

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 対象学年

〈小学校第6学年 市内16校 808人〉 〈中学校第3学年 市内8校 697人〉

(3) 調査内容

- ①教科に関する調査
 - ・小学校【国語・算数】 中学校【国語・数学・英語】
- ②質問紙調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）
- (4) 実施日 令和5年4月18日（火）

※中学校英語「話すこと」に関する調査 令和5年4月18日（火）～5月26日（金）

【今年度調査の特徴】

※今年度の教科に関する調査は、国語、算数、数学に加えて中学校で英語を3年ぶりに実施。「話すこと」に関する調査については、ICT端末を用い、Webにて実施。
 ※児童生徒質問紙調査もオンライン実施。
 ※平成31年度より知識・活用を一体的に問う調査問題に変更

学力調査結果

平均正答率(%)

小学校	富田林市	大阪府	全国
国語	66	66	67.2
算数	64	62	62.5

中学校	富田林市	大阪府	全国
国語	67	68	69.8
数学	50	50	51
英語	43	45	45.6

無解答率(%)

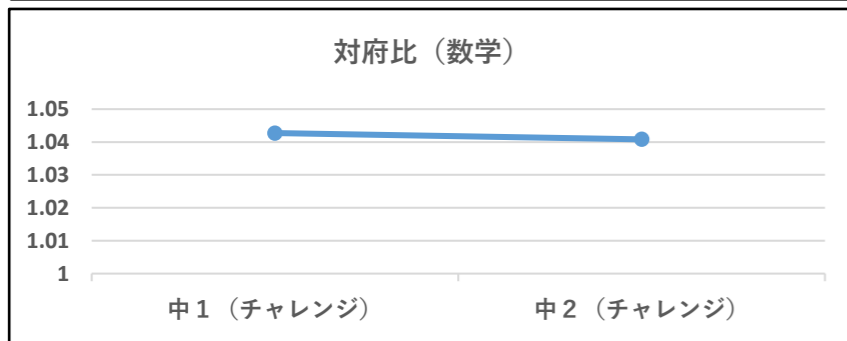
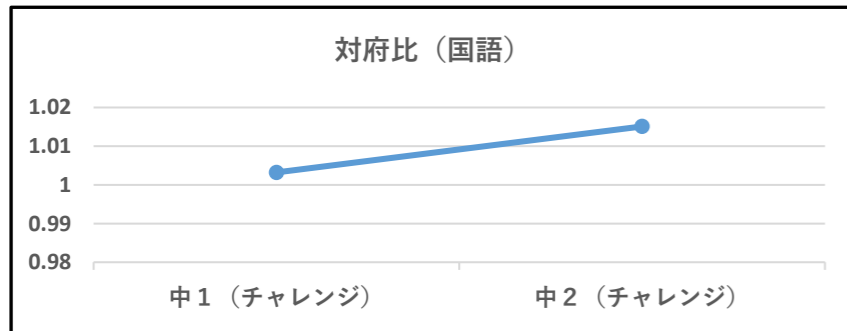
小学校	富田林市	大阪府	全国
国語	4.0	5.1	4.8
算数	2.1	3.5	3.4

中学校	富田林市	大阪府	全国
国語	4.5	5.2	4.6
数学	9.1	11.0	9.6
英語	5.2	6.4	5.7

中1から中2にかけて

※英語は「話すこと」以外

令和2年度は、学力調査未実施のため、同一集団での経年変化を示すことができません。かわりに中1・中2時の大阪府中学生チャレンジテスト結果を用いて、同一集団における対府比での経年変化を掲載しております。



各教科の状況

※（ ）内の数値は全国平均

小学校 国語	領域	富田林市 平均正答率(%)
小学校 国語	話すこと・聞くこと	70.3 (72.6)
	書くこと	22.8 (26.7)
	読むこと	68.1 (71.2)
	言語の特徴・使い方	71.5 (71.2)

小学校 算数	領域	富田林市 平均正答率(%)
小学校 算数	数と計算	68.5 (67.3)
	図形	50.6 (48.2)
	変化と関係	72.3 (70.9)
	データの活用	65.1 (65.5)

中学校 国語	領域	富田林市 平均正答率(%)
中学校 国語	話すこと・聞くこと	79.7 (82.2)
	書くこと	60.5 (63.2)
	読むこと	62.3 (63.7)
	言語の特徴・使い方	65.2 (67.5)

中学校 算数	領域	富田林市 平均正答率(%)
中学校 算数	数と式	62.8 (63.0)
	図形	32.9 (33.2)
	関数	50.4 (51.2)
	データの活用	44.5 (48.5)

中学校 英語	領域	富田林市 平均正答率(%)
中学校 英語	聞くこと	55.6 (58.4)
	読むこと	46.5 (51.2)
	話すこと(発表・やりとり)	15.1(14.5) 5.1(4.2)
	書くこと	23.4 (23.4)

通過率：全国学力・学習状況調査において全国平均正答率70%以上の問題について当該問題における本市の平均正答率が70%以上を通過とし、当該問題のうち、何問通過しているかを割合で表したものを。 ※みんなができて問題をどれだけできているのかが通過率です。

○・・・全国平均を顕著に上回った内容 △・・・全国平均を顕著に下回った内容 ※〔 〕内は問題番号

小学校国語・・・3つの領域で全国を下回る。

○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。〔1三（1）ウ〕
 △目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける。〔2二〕
 →読む目的に応じて複数の資料から必要な情報を見つけて、それらの関係を考える上で、文章や図表などで繰り返し使われている語句や似たような意味をもつ語句に着目させる活動が重要である。

小学校算数・・・全ての領域で全国を上回る【通過率100%達成】

○台形の意味や性質について理解している。〔2（1）〕
 △示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述する。〔4（3）〕
 →本設問と同種の設問を用いて、グラフを比べる活動が考えられる。その際、グラフ内の部分と全体、グラフ間の同じところや違うところなど、着目する視点を明確しながら行う活動が重要である。

中学校国語・・・全ての領域で全国を下回る。

○文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握する。〔2三〕
 △具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。〔3三〕
 →具体と抽象の意味や関係を、語句の意味や自分の伝えようとする情報と結び付けて考えることができるようになるための活動が重要である。

中学校数学・・・全ての領域で全国を下回る。【通過率100%達成】

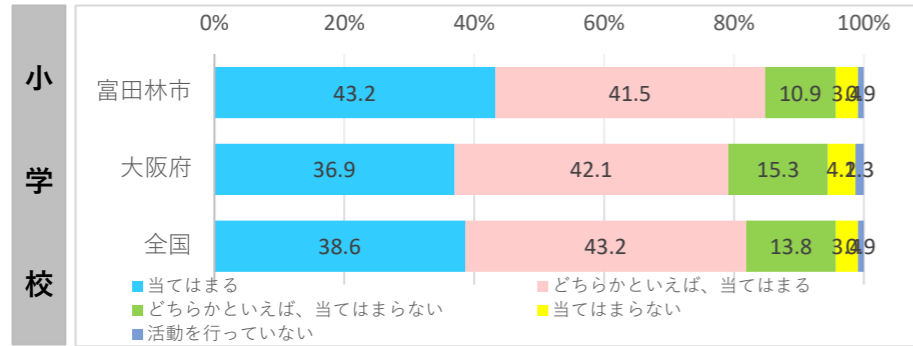
○反比例の意味を理解している。〔4〕
 △四分位範囲の意味を理解している。〔7（1）〕
 →複数の集団のデータに着目し、その傾向を比較して読み取る活動を通して、四分位範囲の必要性和意味を理解できるよう指導することが大切である。

中学校英語・・・話すことは全国を上回る。書くことは全国と同等。聞くこと、読むことは全国を下回る。【通過率100%達成】

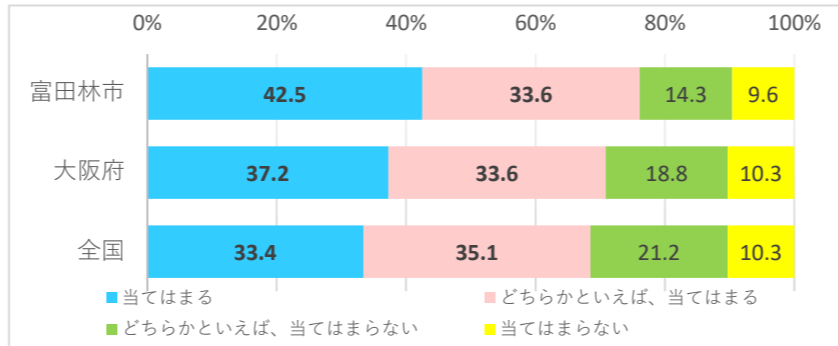
○日常的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を述べ合う。〔話すこと 1（4）〕
 △情報を正確に読み取る。〔5（1）〕
 →短い文章から正確に情報を読み取るには、既習の語や文法事項等を活用して、主語や動詞など意味のまとまりを捉えながら、書かれている情報を読み取っていくことが重要である。

児童生徒質問紙

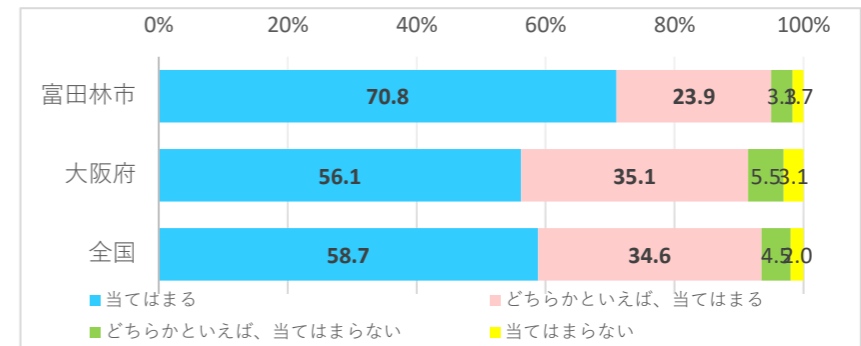
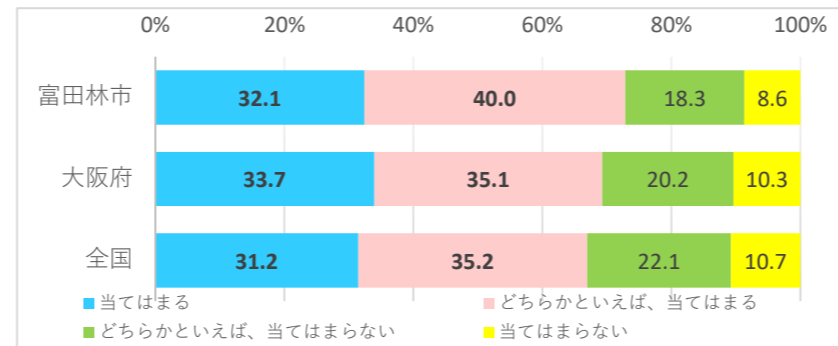
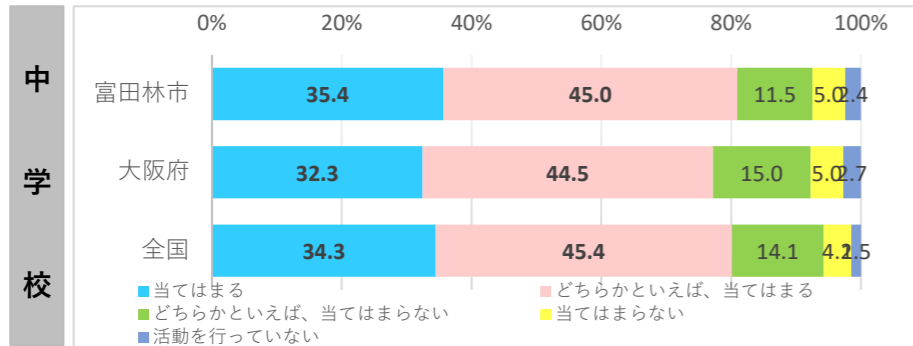
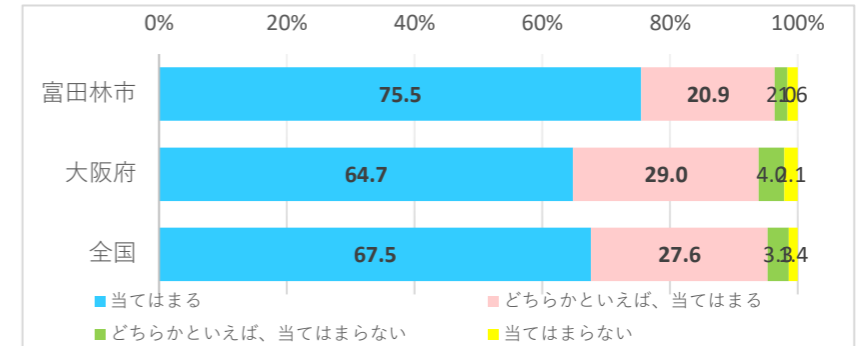
○学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする。



○困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。



○学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つ。



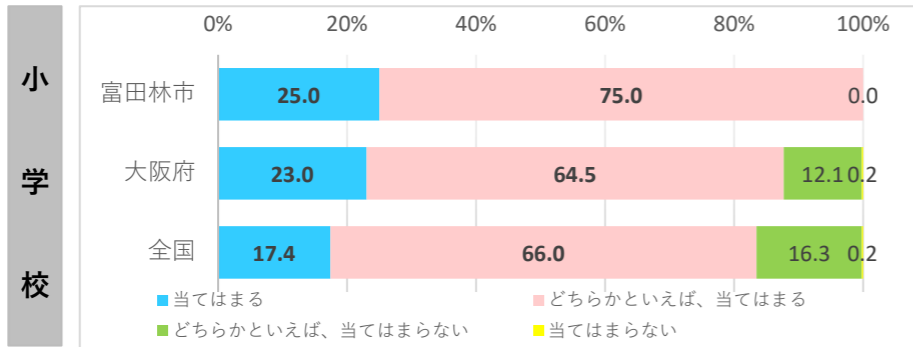
・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という質問に対して、小中学校とも肯定的回答が全国を上回っている。

・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問に対して、肯定的回答が小中学校とも全国を上回っている。

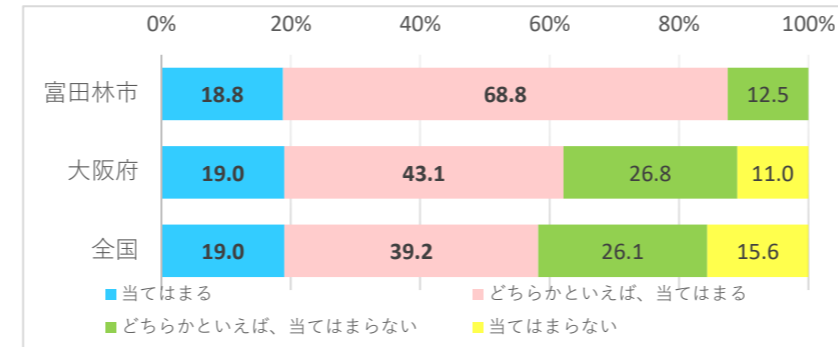
・「学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という質問に対して、肯定的回答が小中学校とも全国を上回っている。昨年度と比べても増加している。

学校質問紙

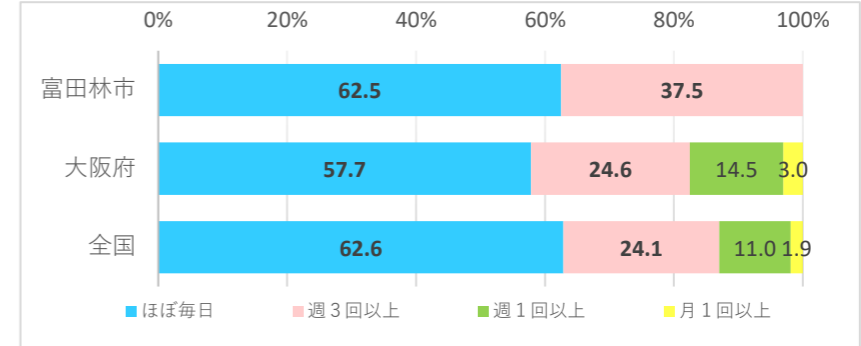
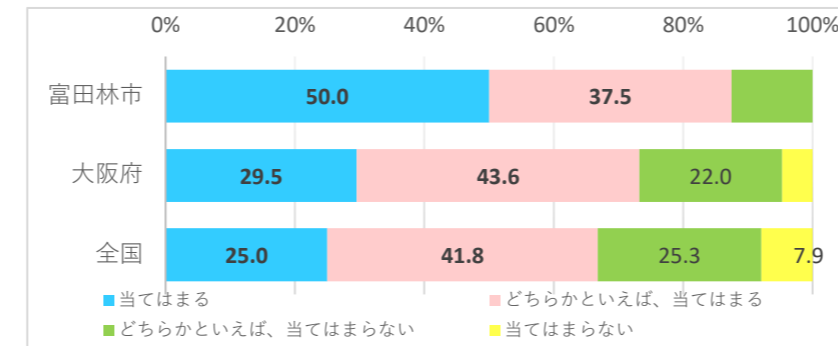
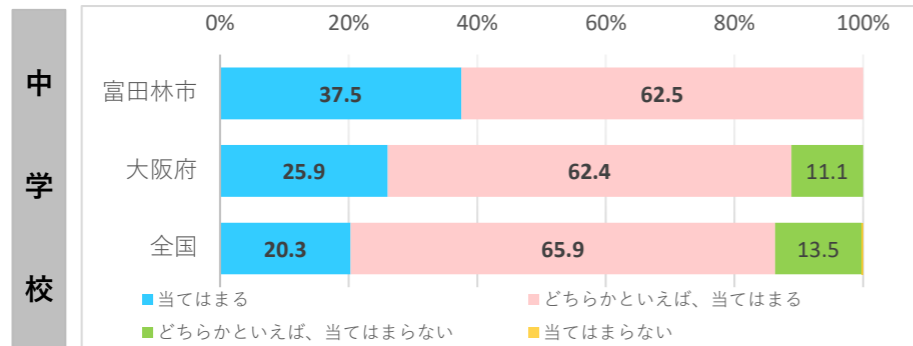
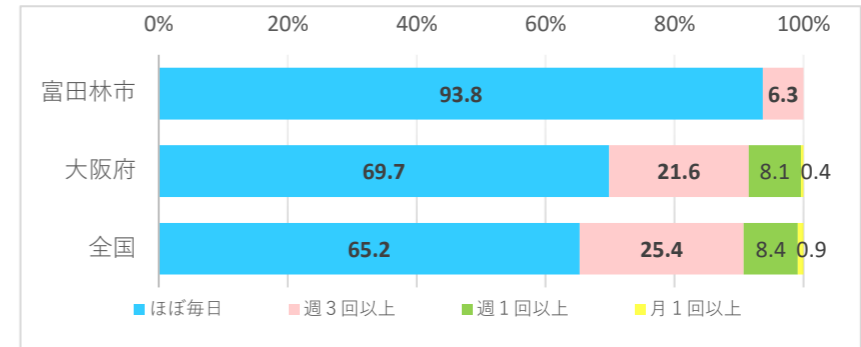
○学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。



○近隣等の小中学校と、授業研究を行うなど、合同で研修を行った。



○授業でICT機器を活用している。（1人1台端末）



・「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」と回答する学校が小中学校とも全国を上回っている。

・「近隣等の小中学校と、授業研究を行うなど、合同で研修を行いましたか」と回答する学校が小中学校とも全国を上回っている。

・1人1台端末をほぼ毎日活用している学校が全国より多く、全校で週3回以上活用されている。